

社会保険の加入割合を拡大

高齢者、女性の労働市場参入促す

当協会では、9月に年金財政検証セミナー、10月にアドバイザーフォーラムを開催し、会員のみならずの啓蒙活動のプラスにしたいと考えています。第一情報の位置付けとして展開させていただきます。

スライドや所得代替率など込み入った話はもちろん、もっと前向きに考えることで年金は増やすことができるということまでお話ししました。また、アドバイザーフォーラムの基調講演では、人生100年時代を切り開いていく上で必要な考え方もお示しいただきました。

この2つのセミナーを通じて、今後の年金の受給方法や、人生を生き抜くための将来設計をしていく上で何が大切であるかということを感じましたので、エッセンスのみになりますがお伝えさせていただきます。

少子高齢化で労働力確保が困難な中、少しでも社会保険に加入する割合を広げようと検討しています。高齢者や女性の労働市場への参入を促し、社会保険の加入を増やすことは以前から述べられていますが、労働市場に参加すること、いざ自分

な影響が出てくるということをもっとアピールしなければならぬということです。どうしても保険負担で手取りが減ってしまうことでのマイナスイメージが広がっていますが、適用を拡大させて分母を広げることについても大切なこととなります。

社会保険に加入するラインをおさらいすると、週の労働時間が一般の従業員に比べて4分の3以上働く方が対象となり、パートタイマーなどの短時間労働者であっても、一般的な30時間以上501人以上の大企業ではさらに適用が拡大され、労働時間が4分の3未満であっても週の労働時間が20時間以上であるとか、賃金の月額が8万8千円以上であることなどを条件として被保険者になります。将来的にはこの適用基準の更なる拡大も予想されることです。

現在、労働基準法では、定年年齢について60歳を下回ることはできず、65歳まで雇用を継続することが義務になっていいます。その中で、さらにもっと先の年齢まで働くことを考えていかないと、自分の年金に変化が生まれにくいことにつながります。日本は以前から長寿の国でありましたが、その年齢も少しずつ伸びています。ということは、お年寄りというよりは現役世代の働く世代であるということになります。ここ十数年で高齢者の体力も能力も、明らかに5歳以上は若返っているそうです。そのいい影響は、70歳まで働かなければならないというマイナス思考より、70歳を超えてまで働くことができ、社会貢献できるというプラスの要素に転じていることが講師はいいいます。

そういった観点から見ても、現在の60歳以上の方は見た目にも、体力的にもとても若いということです。働き続けることで年金受給へのフレームワークも変化が起きることが考えられますし、年金の支給開始年齢や在職老齢年金にも大きな影響が出てきます。

年金は自分自身で作るもの

繰下げの選択や労働年齢の延長で

現在の年金は、60歳から70歳までの間で、自分の好きな年齢で受給できることが可能です。繰上げ受給を選択してしまえば生涯減額された年金ですが、繰上げをせずに65歳になった段階で再度自分の年齢を重ねた状況や体力の問題に応じて受給開始年齢を遅らせるという選択肢もでき、その年齢から増額された年金を受ければいいわけになります。年金は自分自身で作るものであり、このように後から増やすことも

できる柔軟性を持つているものということです。働くことを継続するといことは、その先に新たな年金が生まれることにもなります。

年金2000万円問題は、どうやってそんな金額を準備するのかという不安ばかりが先行していましたが、一般的な夫婦二人の家庭で1か月に要する費用が25万円とすると、年金額は19万から20万円程度としたものが2000万円でのサンプルでした。この5万円の

「年金は作るもの」と

「年金は作るもの」と

「年金は作るもの」と

~第31回~

今が旬の情報提供を

公的保険アドバイザーからの情報特旬便!

(一社)公的保険アドバイザー協会 福島 紀夫



<https://siai.or.jp/>

労働力確保が困難な中、少しでも社会保険に加入する割合を広げようと検討しています。高齢者や女性の労働市場への参入を促し、社会保険の加入を増やすことは以前から述べられていますが、労働市場に参加すること、いざ自分

な影響が出てくるということをもっとアピールしなければならぬということです。どうしても保険負担で手取りが減ってしまうことでのマイナスイメージが広がっていますが、適用を拡大させて分母を広げることについても大切なこととなります。

現在の年金は、60歳から70歳までの間で、自分の好きな年齢で受給できることが可能です。繰上げ受給を選択してしまえば生涯減額された年金ですが、繰上げをせずに65歳になった段階で再度自分の年齢を重ねた状況や体力の問題に応じて受給開始年齢を遅らせるという選択肢もでき、その年齢から増額された年金を受ければいいわけになります。年金は自分自身で作るものであり、このように後から増やすことも

できる柔軟性を持つているものということです。働くことを継続するといことは、その先に新たな年金が生まれることにもなります。

「年金は作るもの」と

働くことと自分の年金に大きな影響
及ぼすこととをアピールする必要がある!!

■保険業界向けセミナー
好評開催中!
・大阪 11月21日(木)
・東京 12月10日(火)